

第1章 はじめに

～ これまでの経緯 ～

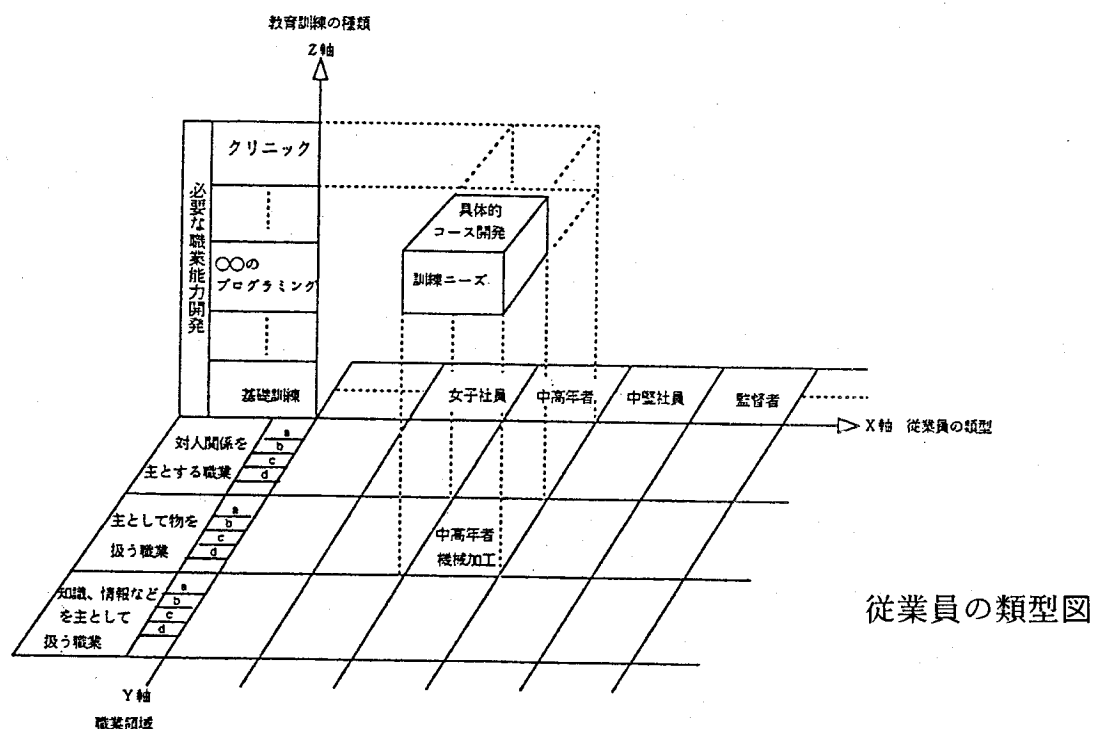
本編は従業員類型別教育訓練研究の初年度に取り上げたテーマである“中年期のための向上訓練コース開発”、第二年度のテーマである“旋盤加工技能クリニック”研究の続編である。

類型別プロジェクト

“従業員類型別教育訓練プロジェクト”は昭和61年4月に発足した。その目的は、今日企業の現場に生じている様々な従業員教育の問題の解決に教育訓練の立場から貢献することである。

今日、労働者の職業能力開発をめぐる諸条件の変化は急速かつ広範囲なものとなっている。それだけに社会経済情勢の急激な変化と職業能力開発との関わりについての研究が重要になっている。このような研究が労働者の職業能力開発の具体的改善に結びつくものであるためには、企業の現場での様々な種類の従業員問題に即した研究が必要とされる。

そこで、我々は諸条件の変化の中で在職労働者に対してどのような職業能力開発が求められているか、その共通的問題事項について教育的視点から“従業員類型別”教育訓練研究にとりかかった。



コース設定から実践まで

本研究の初年度は、機械工業界、主に中小零細企業を取り上げ、特定地域にOff-JTの形態で向上訓練コースを設定することにして、どのような性格の教育訓練を中高年層の機械加工者に準備したらよいか、を検討することを目標とした。特定地域として、山梨県下の機械工業界に選定して次のような研究手続きで行った。

第一に、機械加工に従事している中高年齢者がどのような職場状況に置かれているか、どのような性格の職業能力開発が中高年齢者に必要と考えられるか、主として関連文献の検討を行った。そして、中高年機械加工者を対象とする教育の必要性を吟味した。

第二に、公共職業訓練施設（ここでは技能開発センター）での向上訓練コースとして、中年期の機械加工技能者を対象とした技能クリニックコースを想定した。

第三に、我々が仮に想定した向上訓練コースが有意義なものかどうか、特定の範囲で予備的な調査を行った。ここでは、商工会議所経営指導員、経営コンサルタントなどに対してこの向上訓練の意義があるかどうかを打診した。

第四に、山梨技能開発センターに機械系向上訓練コースを設定することとして、我々が想定した中年期の機械加工技能者を対象とするコースの主旨を関連企業に説明し、賛同が得られるかどうか調査した。

初年度はこの四段階まで進めた。この結果、概に身に付けた技能をとらえなおし、高齢化に伴う技量の衰えを指導力、判断力の向上によってカバーし、中年期からの高齢化対策として“技能クリニック手法”を取り入れた「旋盤加工技能クリニック」コースを実施する方針を固めた。このコース開発の基本的な考え方は、OJTで概に身につけた経験、技能、知識を出発点とし重視することである。それを無視して何か新たな、そして「高度な」知識や技能を押しつけるものではないということである。こうした人たちにとって最も大切なことは、長年の現場経験の中で身につけたものを自ら分析し、再認識することである。そこには、自分が身につけたものの優れた点を理論的裏づけを伴って自覚することや、不十分さを具体的に自覚して矯正することも含まれる。どのように優れたベテラン技能者であ

っても、すっかり身について蓄積している技能を対象化して見直したり、“とらえなおし”したりすることを独力で行うのは難しい。自分で身につけたものを自らとらえなおし、次のステップへと踏み出していく機会を“旋盤加工技能クリニック”コースは提供するものである。

そして、山梨県下の機械工業界でこの訓練コースの有効性を調査し、地域企業に受け入れられることを前報（調査研究資料第79号）で明らかにした。

第二年度（昭和62年度）は、機械系中年期技能者を対象とする“旋盤加工技能クリニック”コースの実践を行うこととした。実践にあたって、どのように訓練コースを組み立てていくか、その手順と訓練内容・方法について次の点を検討した。

第一に、企業主の参加を得て企業委員会を設け、企業のニーズ把握、訓練内容・方法についての意見聴取とこの訓練コースの意義の再確認。

第二に、技能診断プロセスの実施計画とその問題点の検討。

第三に、自主研修プロセスの実施計画とその問題点の検討。

第四に、成人学習の特性を配慮した指導方法の検討。

これらの検討の上に、コースカリキュラムを設計し、教材を準備し、山梨技能開発センターの向上訓練として“旋盤加工技能クリニック”コースを実践した。前にも述べたが、この訓練コースは単に原理的知識を外から教え込んだり、標準的な作業の仕方を一から教え込むものではなく、OJTで得た現場経験を重視し、その中から課題・テーマを引き出し、作業への理解を深めるものである。いわば自ら現場経験を“とらえなおす”機能を持たせたものである。

コースを実践して評価を行った結果、さらに改善すべき点もみられたが、このコースが Off-JTの教育訓練として行われるとき、OJTだけでは得られない飛躍的な向上の手がかりを提供できることが明らかになった。この点の詳しい報告は前報（調査研究資料第86号）を参照されたい。

このプロジェクト研究は新たな意味を持つ訓練コースを開発し、他の訓練施設へ普及させていくという目的をもっている。そのため、今年度は、山梨技能開発センターでの2回の「旋盤加工技能クリニック」コース実践を通して、そのコースの改善を行い、向上訓練コースとして他の訓練施設に普及が図れるよう訓練コースのパッケージ化を行った。

この報告書は、第一に開発した訓練コースの評価と改善、第二に訓練コースのパッケージ化についてまとめたものである。開発した訓練コースが、他の訓練施設で実施されるとき、開発した教材が“なぜ開発されたのか”、“どのように使用するのか”という教材の開発思想が明確化されていなければ有効に活用されることは難しい。教材開発に当たって特に留意したことは、教材開発思想を明確にしたことである。そしてこの向上訓練コースを開発しようとする場合、地域ニーズに合わせて指導員が教材を使いやすいように自由に変えることができるよう構成している。

具体的には、「旋盤加工技能クリニック」コースの普及を目的として、コース全体の考え方を理解するためと訓練コースを開発するに必要なノウハウをまとめた「コースハンドブック」、訓練コースの考え方を詳細に理解するための「コースガイド」、訓練コースの進め方として「指導シート」、教材の作成目的、考え方、使用方法の説明として「教材ガイド」、訓練コースで受講者に配布する「印刷教材」、その他「コース紹介ビデオ、掛図、TPシート」等、訓練コース実践に必要なものを整理して訓練コースパッケージとして開発した。このコースパッケージは、印刷物およびフロッピーディスクの形態で利用可能になっているので、この報告書と併せて各訓練施設でご検討いただきたい。